

石川県
輪島市

災害復興 × 共創デザイン 資源循環と未来創造でまちを紡ぐ

高校生と共に考える輪島復興プロジェクト



経緯/活動内容

2024年2月 能登町支援活動・被災状況調査
2024年4月 地域住民の紹介により輪島高校訪問

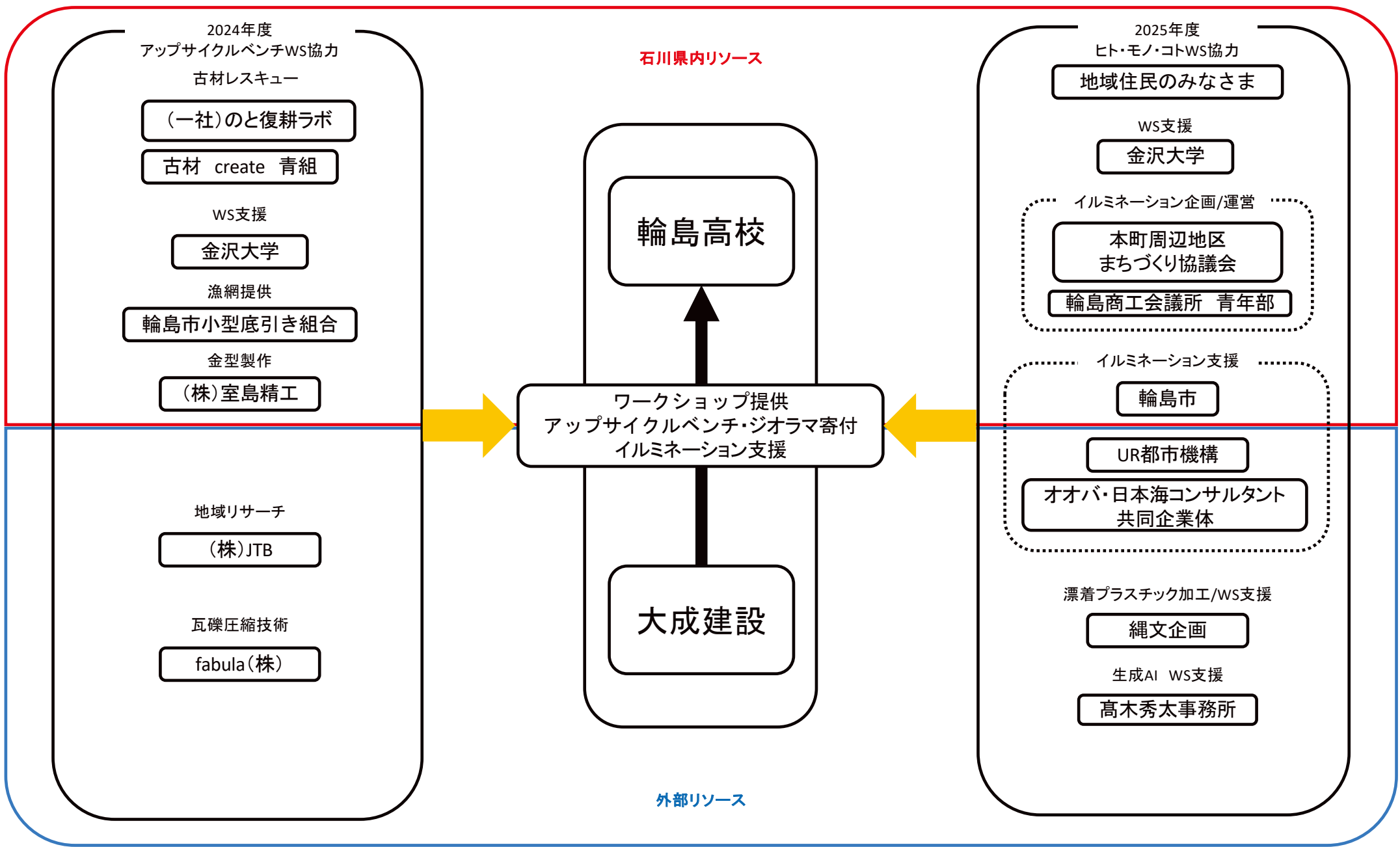
2024年5月～2025年2月
輪島高校生徒との復興ワークショップ

震災で発生した災害瓦礫を、「処分するもの」ではなく、未来の輪島を形づくる「地域の資源」として捉え直しました。被災地から資材を回収・選別し、アップサイクルによってベンチへと再生する取り組みです。ベンチの形状は、輪島高校3年生20名とのワークショップを通じて検討を重ねました。制作の過程では地域の歴史や文化に触れる機会も生まれ、復興を自分ごととして考える実践的な学びの場となり、未来を担う人材育成にもつながっています。

2025年7月～2026年2月
輪島高校生徒との復興ワークショップ

2025年度は、輪島の復興を考える起点として「ヒト・モノ・コト」のつながりを言語化し、未来の朝市やまちの姿を高校生自身が表現するワークショップを実施しました。輪島の地図に旗を立てながら思い出や理想のまちを可視化し、そこから生まれたアイデアの一つとして、震災以後暗くなってしまった朝市通りに灯りを届けるイルミネーションを企画しました。本企画は住民との会話のきっかけをつくる場としても位置づけ、制作・設置のプロセスに住民や地域団体との交流を組み込みました。さらに生成AIを活用して未来の朝市を想像し、イメージを整理してジオラマへ落とし込むことで、未来像を分かち合える形にしました。

ステークホルダーマップ



地域と当社が目指す姿

- 災害で発生した瓦礫を資材として活用
- 輪島の若い世代による復興まちづくり
- 輪島市との関係人口の増加・復興支援



朝市イルミネーション



AIワークショップ



ジオラマワークショップ



アップサイクルベンチワークショップ



模型を用いた形状チェック



動線や景色などを意識しながらベンチの配置を検討